

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 17 日現在

機関番号：27501

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22792158

研究課題名（和文） 院内感染の接触伝播に関する調査および感染管理のためのシミュレーションによる研究

研究課題名（英文） Study by the simulation for an investigation and infection management on contact spread of the nosocomial infection

研究代表者：河野 梢子（KAWANO SHOKO）

大分県立看護科学大学・看護学部・助教

研究者番号：90456240

研究成果の概要（和文）：

MRSA が病院内でどのように感染伝播するのかを明らかにするために、環境表面調査と慢性疾患患者の保菌状況を調べた。病院の環境調査からも慢性疾患患者の鼻腔からも MRSA は検出されなかった。

研究成果の概要（英文）：

I checked an environmental surface investigation and the carrying germ situation of the chronic disease patient to clarify I was infected, and how MRSA spread in a hospital. MRSA was not detected from an environmental surface from a nasal cavity, either.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
2011 年度	600,000	180,000	780,000
総計	1,400,000	420,000	1,820,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：看護管理学

1. 研究開始当初の背景

日本は耐性菌先進国である。院内感染の主要菌であった MRSA も市中で発見されるようになってきたり、VRE が発見されたりと、耐性菌対策は急務である。抗菌剤の適正使用、手洗い、病院・施設間での協力など、複数の戦略を組み合わせるうえで、地域で協力して望まなければならない状況にある。

2. 研究の目的

(1) どのくらいの一般市民が MRSA を保菌しており、(2) どの程度医療従事者の手が汚染されているのかを明らかにしたうえで、

(3) 耐性菌の感染拡大を抑えるための実施可能な戦略モデルを作成することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 外来通院患者を対象に MRSA の保菌状況を調べる。検体は鼻腔前庭より採取し、対象には現病歴、服薬歴、手術歴などを聴取し関連を調べる。

(2) 病院内の高頻度手指接触面をふき取り調査し、MRSA の存在箇所を調べる。

(3) (1) (2) の結果を踏まえたシナリオを作成し、コンピュータシミュレーションに

て最適な戦略を作成する。

4. 研究成果

(1) MRSA は検出されなかった。

(2) MRSA は検出されなかった。

(3) MRSA が日常的に存在するという仮説に基づき調査を行ったが、どこからも検出されなかった。条件がそろった状況下において非常によく検出されるが、それ以外ではほとんど検出されないことが考えられた。今後、その条件を調査し、戦略を立てる必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 0 件)

[学会発表] (計 1 件)

河野梢子、病院内における MRSA の存在場所を明らかにするための調査研究、日本看護研究学会九州・沖縄地方学術集会、2011.11.12
大分市

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

河野 梢子 (KAWANO SHOKO)

大分県立看護科学大学・看護学部・助教

研究者番号：90456240

(2)研究分担者 なし

(3)連携研究者 なし